

財団法人 堀江オルゴール博物館通信

第 21 号 2011 年 1 月 22 日発行 文責 中田

〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園 4 番町 7-1
TEL.0798-70-0656(ナレオルゴール) FAX.0798-72-0110
<http://www.orgel-horie.or.jp/> Email info@orgel-horie.or.jp



ピアノロール Part 1

【普通ピアノと自動ピアノ生産台数】

年	普通ピアノ	自動ピアノ
1900	171,000	6,000
1909	330,000	34,000
1914	238,000	98,000
1919	156,000	180,000
1925	136,000	169,000
1929	94,000	37,000

東京音楽社 楽器の事典ピアノより

自動ピアノはアメリカでは 1900 年頃からすでに作られ、1919 年には〈自動ピアノ〉の生産数が〈普通ピアノ〉の生産数を超えるという現象まで起こりました。その理由の一つには、普通ピアノは家庭の中でも限られた女性がたまに弾くステイタスシンボルの道具という位置付けだったのが、ピアノを弾けない一家の主でもロール紙をセットすれば自由に楽しめる実用性のあるものに変ったという点が挙げられます。また、ヨーロッパの作曲家達にも影響を及ぼしたアメリカ南部発祥の RAGTIME（黒人奴隷達が打楽器や弦楽器で奏でた即興演奏）が、Scott Joplin らによってピアノ音楽に編曲されアメリカ全土に広がり、その人気に追従してピアノロールが作られたというのが二つ目の大きな理由です。蓄音機がまだあまり知られていない頃、自動ピアノは演奏者にとって唯一の記録媒体であり、また世間では家の中で本格的な音楽を聴ける唯一の再生装置だったのです。自動ピアノ（ハード面）の普及に伴い、ロール（ソフト面）の製造販売も莫大な数になりました。ロール 1 本の値段は当時 50 セントから 2 ドルぐらいでしたが、1925 年はピアノロールの年間売上数が一千万本にまで達し、ピアノ曲以外にもジャズ、ポピュラーミュージック、オーケストラ、オペラの曲をピアノにアレンジしたものが生み出され、Richard Strauss が彼自身のオーケストラの曲（バラの騎士）をピアノで弾いて記録したロールまで現れました。しかし 1924 年に電気信号で録音出来る性能の高い蓄音機が登場するとピアニスト達はレコード盤に演奏を記録するようになり、ピアノロールへの記録は次第に減りました。また、人々のステイタスシンボルが自動車に代わり、自動ピアノは 1923 年を頂点に急激に衰退していきます。表現力の乏しい安っぽいアップライトの自動ピアノは酒場などに追いやられ、全盛期の頃は 600 ドルしたものも 1935 年には 25 ドルに投げ売りされるという状態になったのです。

自動ピアノの中でも 1907 年～1930 年に販売されたのが〈リプロデュースングピアノ 再生ピアノ〉と呼ばれるもので、これは実際にピアニストに演奏をさせるとロール紙に鍵盤のタッチや強弱、ペダリングなどすべてが記されるようになっており、その通りに穴を開けて空気を入れることでピアニストの演奏をそのまま再現できる表現力に優れたものでした。通常の自動ピアノが 600 ドル～700 ドルだった頃、このリプロデュースングピアノは 2000 ドル～4000 ドルで販売され、裕福な家庭の広間で贅沢なサロンコンサートに使用されたり、舞台の上でオーケストラとの合奏なども行われました。

自動ピアノ 3 大メーカーのひとつに挙げられるアメリカンピアノ社は、自社の自動ピアノで演奏出来るロールの演奏者の名前をリストにして発表し、随時更新していました。それによると 1928 年 1 月 1 日付けのものでは 335 人のピアニストの演奏が可能であると記し、その中にはロマン派の Harold Bauer や Ferruccio Busoni, Alfred Cortot など有名なピアニストの名前も明記されています。当館にはエオリアン社のスタインウェイ デュオ アートがあり、現在このリプロデュースングピアノで演奏出来るロールの所蔵数は 100 本です。その中にはガーシュインの演奏による「ラプソディー イン ブルー」やラヴェルの演奏による「亡き王女の為のパヴァーヌ」など作曲者自身が自分の曲を記録したロールがあり、作曲者の意図を楽譜の上だけではなく実際の演奏で学べる大変貴重な資料になっています。



コルトーのサイン入り
ピアノロール 当館所蔵

参考文献：[楽器の事典 ピアノ] 東京音楽社 [Encyclopedia of Automatic musical Instruments] David Bowers
[The classical Reproducing Piano Roll] Larry Sitsky [The Pianocorder Story] ピアノコーダー株式会社

2010年1月～2月のプログラムご案内

テーマ「オルゴールのお部屋」
1月4日(火)～2月27日(日)

但し期間中の月曜日 は休館 また、冬期休館 1月24日(月)～2月7日(月)あり。

特別演奏会 RAGTIME & JAZZ

2月10日(木)～13日(日)

アメリカ南部で生まれたラグタイム。その流れを汲んで生まれたジャズ。思わず踊りたくなるような音楽をバンジョーや自動ピアノでお楽しみ頂くプログラムです。スコット ジョプリンからガーシュインまで聴きなじみの曲も演奏します。



冬期休館のお知らせ

オルゴールや自動楽器のメンテナンスの為、
1月24日(月)～2月7日(月)まで休館とさせていただきます。この期間のご予約はメール、FAX、留守電で受付致します。

E-mail info@orgel-horie.or.jp

FAX 0798-72-0110

TEL 0798-70-0656

オルゴール博物館ニュース



去る12月18日～23日に夜景を見ながらの演奏会 クリスマスイブニングプログラムを行いました。曇りの日もありましたが、演奏時には雲も流れてきれいな夜景を楽しむことが出来ました。館内の見学の後には普段公開していない旧堀江邸の見学もあり、お客様には楽しんで頂きました。